

ネパールにおける「衛生」「健康」言説の生成と肉食文化の展開

肉売りカースト・カドギたちによる起業を中心に

中川加奈子（追手門学院大学）

本報告では、食肉業の近代化を国家主導で推し進めているネパールにおいて、従来カーストや宗教に強く規定されると見なされがちであった肉をめぐる文化の展開を考察する。

2016年、屠畜・肉売りをカーストに基づく役割とするカドギたちが、カースト団体を母体として食肉生産・小売会社を起業した。これに先立ってネパール政府は、食肉近代化事業を展開している。家畜処理場及び食肉検査法（1999）では、食肉加工・小売を、政府からの許可証を有するものに限定し、伝統的な祭り、宗教儀礼、祝宴における儀礼を除き処理場以外での屠畜は認めないとした。2010年代以降は、啓発キャンペーンとして、「健康的で衛生的な肉を食べよう」と国営ラジオが呼びかけ、冷凍した「白い肉」を推奨するポスターが役所に張り出されるようになった。

さらに2016年、政府は2019年からのカトマンズ盆地内での水牛商用屠畜の全面禁止を発表した。食用肉において国内消費量が最も多い水牛肉を居住地区内や河原にて伝統的に解体・加工してきたカドギたちは、政府主導の近代化事業に対応する必要にせまられ、カースト団体を母体とした企業を設立し「衛生的」で「近代的」な食肉加工へと舵を切ったのである。

このようなカドギたちの起業は、国家発展を達成するという目的に沿って、主要な社会集団、利益集団が国家の指導と監督のもとに政府の制度に統合されるコーポラティズム（Wiarda 1997）が、カースト集団単位で実施されたものと位置付けることもできる。本報告では、コーポラティズムとして進められる食肉近代化事業に、これまでカーストや宗教に強く規定されてきた肉食文化がいかに統合・接合されるのかを、具体事例から読み解いていきたい。

2015年の大震災以降、カトマンズ市内の衛生問題が表面化し、メディアなどで盛んに報じられるようになった。中でも、河原や居住地区内など目につく場所で伝統的手法を用いて実施される食肉加工業は標的となった。例えば、全国紙であるN紙は、血だらけの手で接客する肉屋を批判的に描写し、「安全な肉を食べられるかどうかは、どこで肉を買うかに自覚的な消費者次第である」と締めくくる。他にも、メディアでは「屠畜は私たちの環境を汚染する」「国家が適切に監査しなければならない」等の見解が示され、これに反応する形で「健康的」で「衛生的」な肉を望む消費者層が生まれつつある。役所で張り出された啓発ポスターにはバツ印とともに、従来の方法で屠殺した

血にまみれた赤い肉の写真が示され、その隣に、血抜きされ冷凍された白い肉の写真が示される。ポスター上部には、「衛生的で健康的な肉は、より良い人生をもたらす」と書かれている。このように、国家主導の啓発事業は、「不衛生で整序されていない場所で作られた肉」「衛生的で健康的な肉」が二項対立で示されることが多く、改善すべきものを「遅れている」と位置づけ、文化的な国家統合を図っているとも言える。

カドギたちが興した会社の設立趣旨文には、「カドギ・ジャーティの仕事である肉の仕事改善し、伝統的な技術をより先進的なものにして、健康的な肉や加工商品を生産すること、シェアを（コミュニティ内で）分配すること」を設立目的として明記している。シェア取得の優先権は、カースト団体に奉仕活動してきた人びと、食肉業組合に所属している人びとにもたらされる。さらに、会社の組織図はカースト団体内に構成されている部会、若者学生同盟、女性組合、頼母子講、各支部、そして外部組織であるネパール食肉業組合が、それぞれ対等にネットワーク的に結びつく形で示される。開設式では、「国家と環境に帰依する」と表明され、政府と官民提携のパートナーとして健康的で衛生的な肉言説を積極的に取り込む姿勢を示している。

国家主導の食肉近代化事業は、肉食文化のカースト社会からの離床と記号化のプロセスでもある。カドギたちは、食肉市場での生き残りを賭けて、「健康的で衛生的な肉」言説の取り込みとカーストのネットワーク化を進めている。他方で、カースト社会に「埋め込まれた」度合いに応じて、近代化のプロセスに違いが生じている。例えば、「進んでいる白い肉」と「遅れている赤い肉」という分類に関して、血の供犠は儀礼に欠かせず、「赤い肉」文化は儀礼を中心として根強い。本報告を通して、政府による「肉食という欲望」（檜垣 2018）の介入プロセスと、それに伴う肉食文化の変容のあり方を明らかにしていきたい。

【参考文献】

- 中川加奈子, 2016, 『ネパールでカーストを生きぬく：供犠と肉売りを担う人びとの民族誌』世界思想社
檜垣立哉, 2018, 『食べることの哲学』世界思想社
Wiarda, Howard J. 1997 *Corporatism and Comparative Politics: The Other Great "Ism."* London: Routledge.

キーワード 肉食文化、言説、近代化、カースト、ネパール